

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム ふれんど
(ユニット名)	グループホーム ふれんど
所在地 (県・市町村名)	栃木県小山市羽川524-1
記入者名 (管理者)	山中 浩子
記入日	平成 20年 10月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員からの意見をもとに『自発性・自立性を高め、向上意欲を引き出す介護』『個々のスキンシップと地域社会との繋がりを大切にす る介護』『安全を守り、生活を楽しむゆとりの介護』をホームの運営理念とし、 一人ひとりが誇りを持って日々のケアに携わっています。	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、『運営理念』と『職員の心得』を読み上げ、また日々の 実践の中で理解・確認を仕合いながら個々の支援に取り組んでいます。	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう 取り組んでいる	開設当初から、『地域社会との繋がりを大切にす る介護』と理念にうたい、 近隣の方への各行事の参加を呼びかけながら、ホームへの理解を求めて います。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ 合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常 的なつきあいができるように努めている	『ホームで一緒に暮らす住民』との意識を持つことが大切ではないかと話し 合い、挨拶はもちろんのことホームで獲れた野菜を届けたり等その時の会話を 大切にしています。	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交 流することに努めている	ホームのレクリエーションへの参加や自治会の祭り参加・保育園児との交 流を実施しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>万が一の場合若しくは緊急時に助け合えるよう年に2回を目標に、近隣の方にも参加していただき、救急救命士の方の講習会を開催しています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>質の向上を常に認識し、評価結果を代表者を含めて話し合いをし、早期改善に向けて努力している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族の要望・意見を伺い、また運営推進委員の方々を含めた意見交換会を行い、実際のサービス提供に取り組んでいます。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム単独ではなく、通所介護・居宅支援・小規模多機能施設等の事業所が併設されているため、『ふれんど』全体として行政との連携を取れるよう努めています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に積極的に参加し、理解を深め活用につながるよう努めています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>『虐待』については、自分自身の身になり『されたいやなこと』『してほしくないこと』を各自が認識を持って努めています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族を含め十分な説明を行うことに留意し、ご理解いただいたうえで契約締結を行っています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を設置し、ご家族には面会時に苦情・ご意見等を伺い、また、運営推進会議の開催時にもご意見を伺い、報告改善につなげています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初に月の行事のお知らせ・預り金出納帳をご家族にお知らせし、面会時には、必ず状態報告や暮らしぶりをお伝えしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の窓口を設置し、ご家族には面会時に苦情・ご意見等を伺い、また、運営推進会議の開催時にもご意見を伺い、報告改善につなげています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議時は、運営者の参加し、介護事業部または、会社の方針や見通しなどの報告を受けたり、職員からの疑問点や意見を話し合ったり等の場を設けており、職員の専門的悩みについては、月一回の顧問医に相談できるようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	突発的な受診や緊急時には、素早い対応が出来るよう余裕のある人員配置を行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当社社長の挨拶分(会社案内パンフレット)に、『若い人も中高年も安心して元気に働ける場所と、その環境を創りたいと考え、在宅介護サービス事業に参入…』とありますように顔なじみのスタッフが対応し続けられるよう配慮しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格に応じた研修を『ふれんど』独自で設けたり、外部の研修を受講できるようにしています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社内外または、個々にネットワークを広げられるよう、他事業者の訪問を受けたり、訪問させていただいたり、また実習生の受入れも積極的に行っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日ごろから意思の疎通を図り、チームワークが取れるよう話し合いの機会を大切にしています。また悩み・不安を打ち明け易い雰囲気作りや人間関係作りに努めております。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の実力が少しでも多く発揮できるよう環境整備に努めています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず第一に、ホームの見学をしていただき、雰囲気が自分に合うかどうかを肌で感じとっていただき、納得されてから申し込みをしていただいています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みをいただく際に、ご家族から話を聞き取り、ご本人の現在の状況の状態から、今後どうなってほしいか、またどうしてほしいかなどを伺いながら協力体制をとります。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談いただいても居室がいつぱいのことが多く希望に添えないことが多いのが現状です。ご本人・ご家族とも入居案を強く希望される場合入居・入所施設の紹介なども行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人がこのホームに馴染めるかどうかまた、当ホームもその方の生活の場として自信を持ってサービス提供ができるか、お互いにお試し期間を設けております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ボランティアによる催し物や外出など、一緒に楽しんだり体験をしたりして、共通の話題の中で共に生活をするようにしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	例) ある方にひ孫さんが生まれたという連絡がありまして。おめでたいことなので、ご家族に了解をいただき他の入居者の方にもお話をしました。すると、みんなが手をたたいて大喜びされ、その後も思い出すと『ひ孫ちゃんは大きくなつたらうね。』とよく話題になります。その話題が出るとご本人もとってもうれしそうで、会話が膨らみます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活の中で『子を思う親の気持ち』を多々感じますが、離れて暮すご家族にとっても『親を思う気持ち』を感じます。そんな大切なお互いの気持ちをお伝えできよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活暦を把握し、話題なつたときには、スタッフが戸惑うことなく話題提供ができるよう心がけています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの長所・短所の把握・理解に努め、問題が大きくなるよう職員が介入したり、プライドを傷つけないよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	外出時に会った時など気軽に声をかけていただいたり、退居後のご本人やご家族の様子をお手紙で伺ったり、さりげなくできるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の上手な方には素早く対応ができるが、困難な方にはご家族を含めて話し合いをし、時にはアイディアの提供をいただきながら、対応に努めております。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報の中から、その方の一番思いの深い部分を把握・理解し、共に大切に出来るよう配慮しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	週一で主治医の往診を受けながら、素早い状態変化の把握に努め、主治医の指示のもとご家族の安心も得られるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の様子をご家族に説明し、ご理解をいただきながらまた、ご家族からの要望を取り入れながら、安心した暮らしを提供できるよう作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	当初は、短期目標(3~6ヶ月)で介護計画を作成し、その後変化がない場合は、1年間の長期目標として計画の見直しをしています。状態に著しい変化があった場合には、随時見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の生活の様子・排泄状況・食事水分の摂取量・身体状況等を具体的に記録し、業務日誌には、大まかに記録した事項を朝・昼・夕の申し送り時に口頭で報告し、情報を共有し合えるよう努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所・小規模多機能の施設併設により合同行事への参加、自社の調剤薬局の薬剤師による内服約の管理・病状に対するのアドバイスを受けるなどの支援協力を得ています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月一回のボランティアさんの訪問を受け、一緒にフラダンスを習ったり、紙芝居・手遊び等の協力を得ております。また地元警察の方には、入居者・職員の名簿を渡し、消防署の方には、緊急時の対応の講義・講習をお願いしております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	『ふれんど』内の居宅支援センターを活用したり、必要に応じて事業所のケアマネに紹介を依頼を依頼したり等、あらゆる方法でより良いサービス提供に努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方には、運営推進委員をお願いしており、意見・アドバイスをいただいたり、とちぎ人権擁護基幹センター『アステラスおやま』の支援協力をお願いしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医から必要に応じて、ご家族と相談のうえホームの主治医宛に紹介状をいただいたり、直接かかりつけ医との連絡を取り合えるよう情報交換を密にしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医には、あらゆる事を相談することができ、主治医も相談した事については、きちんと応えてくれます。認知症については、必要に応じ専門医への紹介また、専門医から主治医へと連携を取って日々の経過観察を行っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、併設のデイサービスや居宅支援センターに看護師、また薬剤師・顧問医もおり健康面・薬剤面に関しても相談・助言をもらえるようになっております。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中のこまめにお見舞いに伺いながら、ご家族との連絡や病院側との情報をもとに本人・家族の意向を話し合いながら退院への準備を進めるようにしています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意向・ご家族の協力、主治医の意見・スタッフの受入れ体制等の話し合いをしながら、本人にとって適切な方法・対応を検討しながら方針をたてています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末ケアについては、主治医と入居者一人ひとりについて話し合いを持ち、本人・ご家族の意向を含め主治医とかかりつけ医との連携をとりながら、予測される状態に対応できるのかを検討し適切な方法で対応します。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	身体状況・ご家族の状態及び介護に対する理解度・サービス提供情報など可能な限りの情報提供をしながら、ダメージを最小限に抑えられるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録の情報公開については、必要な時に随時行っており、言葉かけや個人記録の記入の祭にも言葉に留意しながら、日々の記録に記していません。		
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を大切にし、自己中心的な主張の場合に回りの方の誤解を受けないよう配慮しながら、ご本人が納得できるよう努めています。		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の中でも希望・要望が二転三転することも多々あるが、ご本人がその場を納得し満足いくまで関わるよう努め、柔軟な対応を心がけています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族の協力のもと、身だしなみに対する『こだわり』を大切にしながら、ご本人の納得と満足が得られるよう努めています。		
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームに隣接している畑に、時期の野菜を作り美味しく食べる方法をあれこれ考え、食材(野菜)の下ごしらえをお願いしたり、配膳には無理があるため、下膳・テーブル拭き等を協力いただいています。		
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコについては、内服薬等の関係から楽しむことは控えています。おやつ・お茶については、『何がいいですか?』『熱い方・冷たい方のどちらがいいですか?』『おやつはどれがいいですか?』などのお好みを伺っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間による声かけや排尿・便のサインを見逃さず、失敗のないよう誘導・介助を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の身体状況と希望に合わせて、小規模多機能でひとりずつゆっくり入浴していただいています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、眠らないよう声かけと散歩・外気浴・体操・レク参加等の適度な運動や精神状態の安定を図れるよう傾聴も行っていきます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに違う生活暦の中で、得意とするものの把握をし、それぞれが生き生きする場面を作れるよう努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対する意識を持っておられる方が多く、外出時『お金は？』と言われるのですが、ご家族から預っていることを伝えて、「お金がある」という安心感と「使える」という楽しみを持っていただけるようにしています。ご家族には、毎月の残高を報告しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	『今日は天気がいいね』『風がなくて静かだね』と外へ目を向けた時は、外へお誘いし、お茶をしたりおやつを食べたり、体操したり散歩に行ったり…。季節感を感じていただくようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊温泉旅行・日帰り旅行・バ・ベ・Q・X'マス・運動会などの行事を取り入れ、ご家族と共に過ごしていただきまた、ご家族同士の情報交換の場としても活用しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話・ご家族からの電話等の取次ぎを行ったり毎日のようにメモ用紙に手紙を書く方もおられるので、その方については、ご家族の面会時にお渡しして、話題にさせていただくようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、訪問を受けた状況に応じて居室で面会されたり、リビング・和室で一緒にお茶を摂られたり、自由にさせていただいております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束による弊害を理解しており、昼夜共に見守りを重視し、声かけの実施により拘束の必要のないケアの実践に努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、玄関ドアの施錠は夜間のみで、日中は玄関ドア開放となっております。入居者の状態に合わせてオートロックにての施錠が可能です。状況に合わせて使い分けをしますが、施錠の必要時には、ご家族への理解も得ながら実施しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務分担を明確にし、一人ひとりの状態把握とお一人の『今』を把握し、孤独感・不安感等のないようにまた、プライバシーを守りながら見守り・声かけを行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・カッター・包丁等の使用時には職員と共に行い、安全を確保できるように努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアル・対応手順を個々に作成し居室に貼り、万が一の場合に備え研修を実施しながら、事故防止に努めています。事故発生時には、ご家族・行政への報告を必ず行うこととしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	所轄の消防署に依頼し心肺蘇生法等の緊急時の対応法を受けたり、近隣・ご家族・スタッフを対象に救急救命士の(ボランティア)講習会を開催しています。AED設置に伴い、全職員が指導を受け、定期的に行う消防訓練と合わせて、近隣の方への周知も行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の非難経路として2Fに、避難用滑り台を設置しましたが、夜間においては職員のみとなるため、隣接している小規模多機能施設の職員と協力し、尚且つ近隣の方の協力が絶大なものとなるため、常に理解・協力が得られるよう努めています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	『圧迫感のない暮らし』を提供するためには、必ずと言っても良いほどのリスクがあることをご家族に説明し、リスクを解消するための起こり得る圧迫感へのご理解をいただきながら、またその圧迫感への早期解消に向けての対応に努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録への記入は、欠くことなく詳細を記入し、朝夕の申し送り時には、口頭にて状態を明確に伝えることを義務と付けています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	数種類の薬は薬剤師により一包化し、職員管理にて誤りのないよう的確な経過確認を行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の食物や果物・十分な水分・適度な散歩や運動・入浴時の腹部マッサージ等を行いながら、予防に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後・就寝前の口腔ケアの声かけ、実施の補助的支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者の栄養士と相談し、食べ易い食材の提供を依頼しております。献立には、カロリーの表示もあり摂取量の記録も行っております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ…入居者・全職員共に摂取実施。 その他については、感染症マニュアルをさくせいし、そのに基づき手洗いの強化・次亜塩素酸清製水を共有スペース・キッチン・に噴霧しています。寝具居室床にも噴霧し、職員一人ひとりが携帯用スプレーを使用し、ホーム内に感染症の要因を持ち込まないよう予防に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン・共有スペース…24時間次亜塩素酸清製水を噴霧。居室寝具…清掃時に床・寝具に噴霧。キッチン・ホール…毎食後床に噴霧し清掃。野菜はオゾン水にて洗い、台所用具はその都度除菌、食器等は、乾燥機を使用。職員については、エプロン交換・三角巾着用・手洗いを強化し、次亜塩素酸スプレーの携帯で感染症要因の持ち込みに十分な注意を払っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの清潔感を大切にし、段差・傾斜を少なくして安全な足元を確保しつつ、どの家庭にもあるような鉢植えを飾り、施設のイメージが遠く感じられるよう心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の眩しい時間帯はカーテンで陽射しの調節を行い、食事時は静かな音楽で、午後には、テレビ・ビデオ等楽しんでいただき、会話や声かけの際の声のトーンは少し抑えるようにしていますが、耳の遠い方の場合には少々大きくなってしまいうことも多々あります。浴室・トイレ・廊下・玄関には手すりを設置してあります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に掘コタツ用に畳が切っており、ご家族の面会時・来客時に使用したり、寒くなるとテレビを観ながらゴロンとお昼寝をされる方もいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れ親しんだ物を持ち込んでいただいたり、入居後も本人・家族との関係を深めながら希望・要望に応えられるよう努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は窓を開け、換気を充分に行えるよう心がけ、居室の換気・室温調整をこまめに行いながら、体調変化に留意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には、安全を確保するために整理整頓に配慮し、手すりの設置、足元の安全確保、居室入り口に表札を付け、居室の間違いや混乱予防に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、使い慣れ親しんだ物を持ち込んでいただいたり、入居後も本人・家族との関係を深めながら希望・要望に応えられるよう努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室窓から見えるようホームの前に畑で野菜を作ったり、鉢植えの花を楽しんだり、ベランダの軒下に柿を吊るしたり、季節感をより多く感じていただけるよう工夫に努めている。		

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- * 常に清潔を心がけています。
- * 鉢植えの花々で季節が感じられます。
- * ホームの畑で季節によっていろいろ収穫された新鮮野菜を食べながら、その時々思い思いを感じれます。
- * レクリエーション中に、リハビリとなるようなことを取り入れ、一人ひとりが楽しめる工夫をしています。
- * 入居者・スタッフの信頼関係が出来ています。
- * 一人ひとりの個性が生かされ、みんなが生き生きしています。
- * 入居者同士が仲良く、励まし合い・時には慰め合い、日々助け合って暮らしています。